リリースノート

バージョン 2.1.3.0 – 2014/01/14 公開

※ wivia は、株式会社内田洋行の日本における登録商標です。

※ Microsoft、Windows は、米国マイクロソフト社の米国及びその他の国における登録商標です。

※ Apple、Mac、Mac OS は、米国 Apple Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

※ その他システム名、プログラム名などは、一般に各社の登録商標です。

■ 概要

wivia 2.1.3.0 では、Mac の最新の OS である OS X 10.9 に対応するとともに、いくつかの機能追加と不具合の修正を実施しました。wivia 本体のバージョンが 2.0.0.0 以上で、かつ Windows 用および Mac 用 wivia ソフトウェア バージョン 2.0.0.0 以上をお使いのすべての方に対し、本アップデートの適用を推奨いたします。
本バージョンのファームウェアおよびソフトウェアは、wivia サポート Web サイトから入手いただけます。アップデート方法については、wivia サポート Web サイトで入手いただけます『wivia 取扱説明書』をご覧ください。（wivia サポート Web サイト http://www.uchida.co.jp/wivia/）

■ 動作要件

wivia 2.1.3.0 の対応オペレーティングシステムは以下のとおりです。

- Windows 用 wivia ソフトウェア
  - Windows 8 / 8.1 [i]
  - Windows 7 Service Pack 1
  - Windows Vista Service Pack 2
  - Windows XP Service Pack 3
- Mac 用 wivia ソフトウェア
  - OS X 10.9.1
  - OS X 10.8.4
  - OS X 10.7.5
  - Mac OS X 10.6.8
  - Mac OS X 10.5.8

[i] ARM アーキテクチャの PC 向けの OS である Windows RT には対応していません。

■ 機能の追加、変更、および削除

wivia 2.1.3.0 では、以下の機能を新たに追加しました。

［ファームウェア］

1. wivia 本体でネットワークでの通信エラーおよびシステムエラーを検出した場合に、wivia 本体画面にエラーメッセージを表示する機能を追加しました。

［Windows 用ソフトウェア］

2. ネットワークでのデータ転送量が低下したことをプログラムが検出した場合に、PC 画面にメッセージを表示する機能を追加しました。

［Mac 用ソフトウェア］

3. OS X 10.9 に対応しました。

wivia 2.1.3.0 では、以下の機能を変更しました。

［ファームウェア］

1. プロジェクター等の投影機器での画面解像度の誤認識を軽減するため、wivia 本体の待ち受け画面を変更しました。

2. 解像度の縦横比が wivia 本体の設定と異なる PC から wivia 本体へ画面を投影した場合に、wivia 本体側の画面が引き伸ばされずに表示されるように変更しました。（画面解像度が WXGA (1280 x 800) より大きい PC においては、縦横比の調整が行われます。）

■ 不具合の修正および品質の改善

wivia 2.1.3.0 では、以下の不具合の修正および品質の改善を実施しました。

［ファームウェア］

1. DHCP 機能において、特定の設定下での不要な Discover パケットの送出を抑制しました。

2. wivia Snaps の安定性を向上しました。

［Windows 用ソフトウェア］

3. 特定の条件下において Windows 8 で DPI 仮想化機能（デスクトップ上のテキストやその他の項目を拡大する機能）が有効になっている場合に、PC の画面が正しく表示されなくなり、かつ wivia ソフトウェア終了時に画面解像度が正しく戻らなくなる問題を修正しました。

4. ネットワークで通信エラーが発生した場合に、まれに wivia ソフトウェアが動作を停止する問題を修正しました。

■ 制限事項

1. 本リリースノートに記載しているものより過去のバージョンの wivia ファームウェアは、本リリースの Windows 用 wivia ソフトウェアと一定の互換性はありますが、すべての機能および性能の互換性を保証するものではありません。本リリースノート記載のバージョンの wivia ファームウェアをご利用ください。

2. Windows 用 wivia ソフトウェアの画面投影モードの変更には、wivia ソフトウェアの再起動が必要です。設定変更後に再起動を促すメッセージが表示されますが、ここでキャンセルすると wivia ソフトウェアは再起動されず、投影モードの設定変更は適用されません。設定の変更は wivia ソフトウェアの再起動後に正しく適用されます。

3. セキュリティソフトウェアなどにより、USB メモリーへのアクセスがブロックされることがあります。この場合、USB メモリーから wivia ソフトウェアを利用することはできません。セキュリティソフトウェアのセキュリティレベルを低く設定するか、システム管理者にお問い合わせください。

4. 一部のポップアップ画像などは wivia 本体に正しく投影されないことがあります。この場合、投影の設定で DirectX 投影モードに設定することで投影できる場合があります。

5. 一部の CAD ソフトウェアのような OpenGL を多用するソフトウェアや、DirectX を多用するソフトウェアと wivia の画面投影機能との併用ができないことがあります。Windows 用 wivia ソフトウェアの場合は、投影の設定で DirectX 投影モードに設定することで投影できる場合があります。

6. Windows XP SP2, SP3 および Windows Vista SP0, 1 で Windows 用 wivia ソフトウェアをご利用頂く場合、IP アドレスを直接指定して同時に発見できる wivia 本体は 10 台までに制限されます。上記 Windows にてご利用いただき、かつ IP アドレスを直接指定して 10 台を超える wivia を同時に発見する必要がある場合は、弊社または販売代理店までお問い合わせください。

7. 一部のシンクライアント環境では wivia を正しく動作させることができず、シンクライアント環境に深刻な影響を与える場合があります。シンクライアント環境にて wivia をご利用頂く場合は、弊社または販売代理店までお問い合わせください。

■ 既知の問題

1. wivia 本体へ日本語キーボードを接続した場合、一部の記号文字が正しく入力されません。

2. 複数のコンピューターの wivia ソフトウェアから同じ wivia に対して、短い間隔で連続して繰り返し投影操作が行われることで、wivia 本体が動作停止することがあります。wivia への操作は、他の操作の処理が終了するのを待ってから実行するようにしてください。

3. ファームウェアバージョン 2.0.0.0 以上の wivia 本体を解像度 WXGA (1280 x 800)、画面の色 Normal (16bit) の設定で使用中に、画面解像度のアスペクト比が 4:3 の環境で動作している古いバージョンの wivia ソフトウェア（バージョン 2.0.1.0 以前）から 4 分割投影を実行すると、画面が正しく表示されないことがあります。この場合、Windows 用ソフトウェアをアップデートしてご利用ください。

4. まれにですが、wivia 本体が動作を停止することがあります。この場合、wivia 本体付属の AC アダプタを一度抜いた後再度挿し込み（電源を再投入し）、wivia 本体を再起動してください。

■ 関連する資料

wivia 本体、および wivia ソフトウェアの詳細な使い方については、『wivia 取扱説明書』をご覧ください。これらは wivia サポート Web サイトから入手いただけます。